

コンテナ苗秋植栽定着試験 4年目調査結果

1 調査概要

平成 28 年 11 月に植栽したコンテナ苗（カラマツ・トドマツ・アカエゾマツ各 50 本）の毎木調査（根元直径、苗長、被害の有無）を令和元年 10 月 24 日に実施した。

2 健全木比率の推移について

健全木比率を除雪区と対照区で比較したところ、下図の通りとなった。

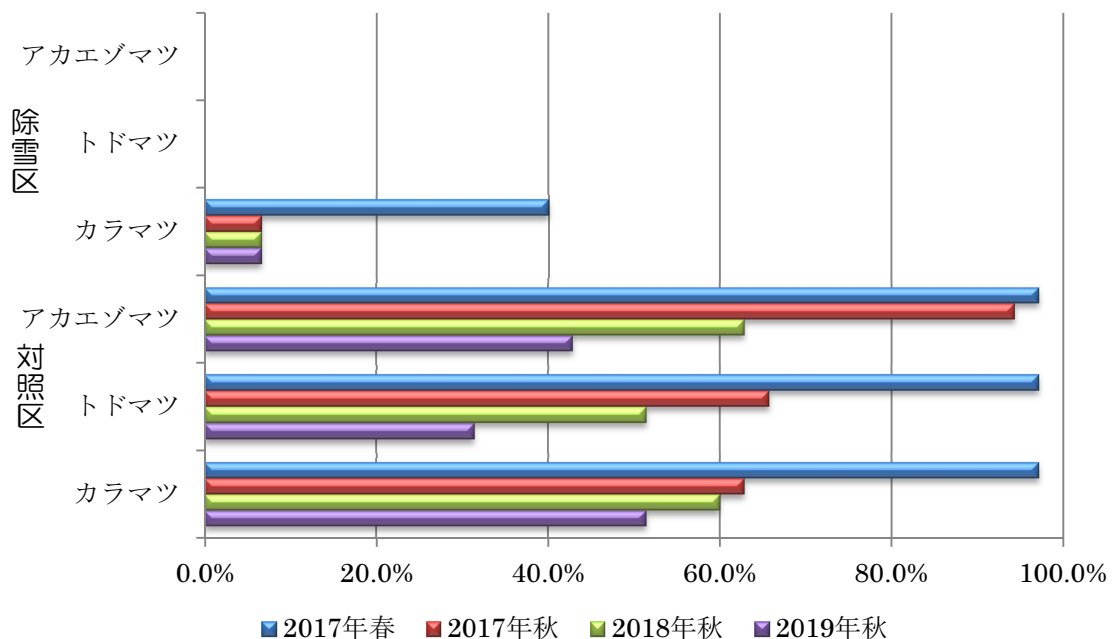


図1 健全木比率の推移

除雪区はカラマツが 1 本生存している状況に変化はなかった。対照区における健全木比率はトドマツで 40% を下回る結果となった。頂芽の枯損や折損が観察されており、樹高が低い事による誤伐などの影響を受けていると思われる。また、被害が見られた要因として、ネズミなどの食害によるものが多く、気象による被害は認められなかった。この事より、植栽から 3 年間定着出来れば、植栽時期の影響は小さくなると推察された。

3 健全木の成長量調査結果

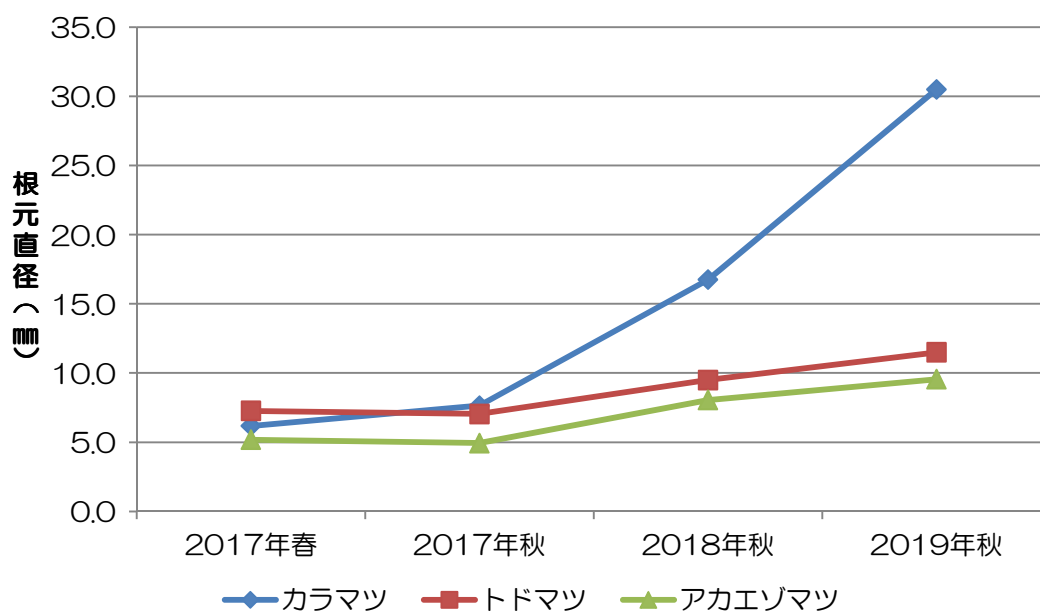


図2 樹種別 平均根元直径の推移

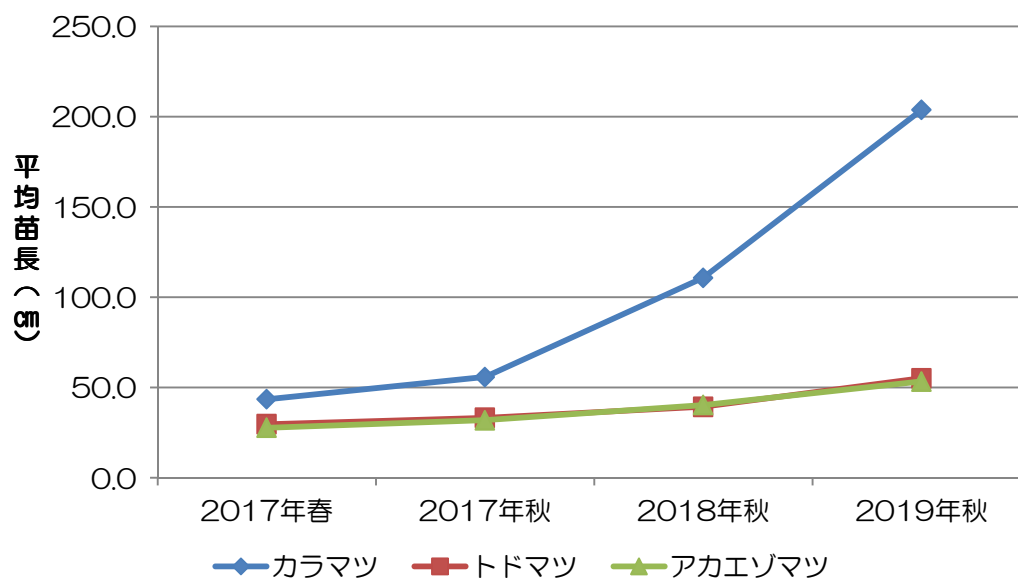


図3 樹種別 平均苗長の推移

根元直径及び平均苗長は、全ての樹種で昨年の成長量を上回る結果となった。カラマツについては下刈りが不要となるほどの苗長となった。トドマツ・アカエゾマツは、樹高成長が緩やかではあるが、順調に生育している事が観察された。